

令和3年度総会開催

令和3年度の総会が5月11日、みしまプラザホテルにて開催されました。1年前は、新型コロナウイルスの影響で書面表決という異例の開催でしたが、今年は、みしまプラザホテルのご協力も得て、対策を万全にして開催することができました。

総会の冒頭、平出会長が「令和2年度は、コロナの影響でほとんどの行事が中止となってしまう、とてもさみしい思いでした。しかしそのような中で、なんとか知恵を絞って開催した楽寿園でのオータムフェアには、大勢の方が来場くださり、たくさんの“笑顔”を見ることができて、本当に素晴らしかった。令和3年度も、新しい形での姉妹都市・友好都市とのリモート交流を計画していますし、色々と工夫をして、“笑顔”を少しでも多く見ることができるよう頑張りたい。会員の皆さんのご協力をお願いします」と挨拶をしました。

来賓の豊岡武士市長、大房正治市議会議長の祝辞の後、議事に入り、令和2年度の事業報告、決算報告、令和3年度の事業計画、予算案を審議、いずれも承認可決されました。

なお、恒例の総会後の懇親会は、今年も中止となりました。



平出会長



総会会場の様子

図書寄贈



市立小中学校に図書を寄贈

～今年で17回目～

毎年恒例となっている図書の寄贈のため、平出会長ほか役員が、4月27日、三島市教育委員会を訪れ、西島教育長、鈴木教育推進部長に市立小中学校21校分の本を手渡しました。

この本は「なるほど知図帳世界 2021 ニュースがわかる世界“知”図」というもので、世界地図ばかりでなく、世界の情勢、国際ニュース、時事問題などを、写真や表などを駆使してわかりやすく解説しており、楽しく教養が身に付く図書です。2021年版は、巻頭にコロナウイルスの状況やパンデミック、感染症の歴史などを特集しており、とても興味深いものとなっています。

子供たちが楽しみながら勉強して、広く世界のことに興味を持ってくれるようになればうれしく思います。



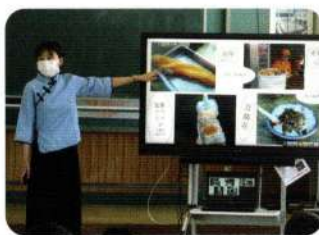
国際理解を目的に「世界の文化を知ろう」と題して、6月1日、市立向山小学校にて出前講座を開催しました。5年生3クラス87名を対象に、イタリアのナポリ出身のアレッサンドロさんが、母国イタリアのこと、イタリアの学校生活などの話をしました。アレッサンドロさんは現在、御殿場のレストランで働いていますが、ナポリ生まれのピッツア“マルゲリータ”のお話になると、子どもたちは興味津々。トマトソースの赤、モッツァレラチーズの白、バジルの緑がイタリア国旗の色合いと同じで、イタリア王妃マルゲリータが大変気に入ったため、その名前をとったのだそうです。

後半は、中国北京の出身で、三島市国際交流室職員の李寧さんが、中国の昔の女子校の制服で登場。クイズ形式で、中国の場所は？国旗は？などと問いかけ、子どもたちは元気に答えていました。家では食べずに、通勤の途中で店に寄って定番の揚げパンや豆乳を買い、オフィスで食べるのが普通だという中国の朝食事情についてのお話では、ピッツア同様、みんな熱心に耳を傾けていました。また、中国式の数を数える指使いを教わり、早速使ってみました。

授業の終わりには、“チャオ”、“再見”と大きな声で挨拶し、とても楽しい国際理解講座となりました。



講師の李寧さん(左)とアレッサンドロさん



山田中と麗水市景寧中の教員がリモート交流

5月6日、コロナ禍の為、相互交流が出来なくなっている市立山田中学校と友好都市麗水市の景寧中学校との間で、リモートワークによる「交流」が行われました。

三島市からは、国際交流を統括する岩崎地域協働・安全課長と柿島国際交流室長、通訳の李寧さん。山田中学からは篠崎校長、志村教頭が参加して行われました。志村教頭は、7年ほど前に両市の教師相互派遣事業で景寧中学校を訪問しており、当時の写真を示しながらの参加でした。

麗水市からは、市外事弁の徐文桀副主任、黄亦丹職員。景寧県政府弁公室周奇斐副主任、劉康華職員と景寧県副教育長兼景寧中学陳戰耕校長。そして2019年から始まった日本語教育の担当教師が通訳として参加していました。

今回は、9月に行われる予定

の両校生徒によるリモート交流に向けての、スケジュールや内容の打合せでした。やり取りは終始和やかに行われました。交流室の李さんの通訳は流石でし

た。景寧中からは次回、お互いの地域の歴史や特色などを紹介し合ひましょう。一緒に「北国の春」を歌いませんかとの提案もありました。

実質50分位の交流の中、画面も鮮明、音声も良好でしたが、双方に通訳が必要なので実質的な内容は半分位の時間となりました。更に麗水市側の画面は固定だったので、参加された方々の顔が判りにくい点がありましたが、次回からは、画面操作をする担当者に参加して頂くことで解決できるでしょうか。

リモートワークにより、両市両校の交流が更に深まることが期待されます。



交流中の、左から、志村教頭、通訳の李寧さん、篠崎校長、岩崎課長、柿島室長



交流の様子

外国人住民向け 防災講座 開催



防災講座の様子



消火器訓練の様子



地震体験車の様子

外国人住民向け防災講座が、5月22日（土）三島市役所大社町別館防災研修室にて開催され、三島市在住の22名の外国人（ペルー・インドネシア・アメリカ・フィリピン・ベトナム・中国）の皆さんが参加しました。三島市企画戦略部危機管理課、防災担当の宮沢さんが外国人の皆さんに防災について知っておいてもらいたい事を地震や津波、大雨、台風による洪水などの自然災害を映像で紹介しながら、地震が起こるメカニズムや起こりうる被害の大きさ、災害から身を守る方法、避難するときの注意、危険な場所をハザードマップで事前に確認するなど、クイズも交えながら分かりやすく説明してくださいました。会場には英語、中国語、ベトナム語の通訳も参加し、外国人の皆さんは真剣に耳を傾けて聞いていました。防災講座後半は地震体験車で大きな揺れを体験したり、消火器の使い方の講習を受けました。地震体験車に乗るのは初めての方ばかりでしたが、皆さんテーブルの下にもぐったりするなど、身を守る行動をとっていました。「最初は怖かったけれど、みんなと一緒にあったから楽しかった。」など、アトラクションに乗ったような感想もありました。消火器訓練では初めて使う方たちがほとんどでしたが、説明をよく聞いて炎に見立てた的を上手に狙って当てていました。体験後は、新型コロナウイルスの予防や、外国人へのワクチン接種についてのお話もありました。日本は地震大国ともいわれ、近年は大雨による洪水も頻繁に起こっています。もし、災害にみまわれても、三島に住む住民ひとりひとりが、日本人、外国人の垣根をこえて協力していきたいですね。

国際交流室 新職員紹介



国際交流室長
柿島 淳さん

令和3年4月1日から国際交流室長として、皆様と共に活動させていただくこととなりました柿島淳と申します。現在、世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、今まで当たり前で過ごしていた日常がどれだけ幸せな日々だったのかと改めて考えるようになりました。人とのつながり、対話、行動を楽しむことを最高の喜びとしている私は、この歯がゆい状況下で、どうコミュニケーションをとるか、ということ常々考えるようになりました。私は生まれ育った三島が大好きです。人も景色も食べ物も。多くの人にも知ってもらいたいという気持ちで、数年前より三島の旬な情報、取り組みを撮影・編集し、SNS等にアップすることに日々取り組んでいます。私ごときの映像を見て、観光に来てくださる方、TVのロケ地として選んでいただく

など嬉しいことも起こっています。これからの夢は、私の動画により姉妹（友好）都市の皆様、海外の方にも富士・箱根・伊豆、そして三島市に興味を持ってもらうことです。コロナ収束後に笑顔で交流できる日を楽しみにして、会員の皆様と共に新しい形の国際交流、情報発信、そして多文化共生社会の形を作り出すことにチャレンジしていきたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。請多关照！

James Molloy - MIRA Newsletter #28

JIMのみしまものがたり(28)

二つの顔を持つ楽寿園

前回のMIRA通信で、このところとても気に入っている三島の路上や川沿いでの野鳥観察についてお話ししましたね。先日も楽寿園を訪れ、藤の影で踊るセグロセキレイ (Japanese Wagtail) や キセキレイ (Grey Wagtail) を観察していましたが、その時今まで当たり前すぎて気づいていなかった、かなり不思議なことに気づきました。



楽寿園小浜池(2021年6月5日撮影)

その日はまだ湧水で池が満たされ水面が上昇する数日前で、小浜池の干上がった部分を見渡すことができました。見渡すうちに、季節の変わり目にこれほど自然に、そして劇的に変化する場所はまれなのではないかと、ふと気づいたのです。

木々が輝きながら芽吹き、生命力あふれた花が咲く一方で、ゴツゴツとした溶岩の庭が、穏やかできらきら輝く水面の池にすっかり姿を変えてしまうのですから。季節によって起きる変化を、これまでは三島での生活の一部として、特に深く考えず当たり前のようにつけていたのです。

乾いた池底を見ていると、昨年の水音の記憶がよみがえってきます。去年は湧水が大変豊富だったため、池の端から水がこぼれ出て、源兵衛川や蓮沼川に勢いよく流れ込み、街中をめぐったのを。

楽寿園は名勝としてのみならず、国の天然記念物に指定されているのは当然のことと言えるでしょう。

楽寿園の年間パスポートは1,000円だそうです。私も購入して、もっと頻繁に散策することにしましょうか。

みしまめっせんじゃー 認定式 2021年5月22日(土)



「みしまめっせんじゃー」の皆さんと豊岡市長
右端が三島日本語サークル代表の川崎さん

5月22日(土)三島市役所大社町別館・防災研修室にて『みしまめっせんじゃー認定式』が行われました。市や県、国等の日本語で発信される情報は外国人に伝わりにくいことから、外国人市民と繋がりのある方に「みしまめっせんじゃー」となって、SNSやメール等を駆使し、各国の言葉でわかりやすく伝達してもらう事を目的としています。「みしまめっせんじゃー」には6名(団体・個人)、協会の関係では、三島日本語サークル(代表:川崎さん)が任命されました。豊岡市長から任命書を渡され、「三島市からの情報を伝え、また、在住外国人の声を三島市へ届ける。多様な人達が住みやすい街づくりに協力したい。」と意気込みを語りました。豊岡市長は「在住外国人の皆さんへ情報を発信し、安心、安全な生活を送れるように力添えして頂きたい。」と呼び掛けられました。

「みしまめっせんじゃー」は登録者を募集しています。登録希望の方は三島市国際交流室までお問い合わせください。

申込み・問合せ

- ★ 三島市国際交流協会 (MIRA) 事務局
TEL 976-1020 FAX 976-1021
- ★ 三島市国際交流室
TEL 983-2645
三島市中央町5-5三島市役所中央町別館



麦畑 (編集後記)

- ★Some people feel the rain. Others just get wet. ポブ・マリー (訳) 雨を感じられる人も、雨に濡れるだけの人もいます。(J)
- ★コロナに負けないコツは、笑顔と思いやりっしょ。(明)
- ★収束したら何したい? 思いっきりワインパーティだ!!! (S)
- ★“リモートで繋ぐ国際交流”元年!! (桜)